2023年度 八洲学園高等学校 第三者評価

第三者評価

氏名（ふりがな） 三井 明子（みつい あきこ）

経歴 一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構 共同代表

（就労移行支援でらいとわーく サービス管理責任者）社会福祉士 精神保健福祉士

評価日時：2024年 5月 1日

【2023年度八洲学園高等学校自己評価報告書（結果）の評価】

【講　評】

教育理念にある「すべての人が学ぶことの喜びと楽しさを知ることのできる場所であること」が、八洲学園高等学校の基準となっていると思います。この基準をもって、教職員は、生徒が教育や指導が気持ちよく、心地よく受けやすい環境整備と繋がり、学校全体の体制作りに展開しているのだと考えます。

わたしたち福祉の現場でも、地域連携・職域連携など「連携」がとても大切であると認識しています。学校の現場でも「連携」が重要であるという認識から、教職員間の研修が積極的行われるよう制度整備を行った点は素晴らしい取り組みだと考えますし、教職員のアンケートでも、他校種・関係機関等の連携で93%がA評価であったことは特筆できると言えます。

（新コロナ感染症の影響で）長い期間、予定通りいかなかった行事や、特別活動や・各種授業についても、2023年度は概ね予定通り実施が出来たことや、スポーツ大会や、文化祭、修学旅行の実施が出来たことは、教育目的でもある「社会への適応力を身につける」「生きる力を育む」につながる活動が出来たとも言えます。体験学習や経験で、実体験できることで得られる学びと、コミュニケーションや、自己効力感と自己肯定感が養われる機会が増えたと評価できます。「座学だけでの勉強だけではなく、体験学習や経験を大切にして実体験から得られる経験こそが、その後の人生にとって、かけがえのないものになると信じています」と謳われているように、教職員が「活動」について、とても大切にしていることが理解できます。その結果、教育内容のうち、学校行事、特別活動、国際理解の3項目で90%を超える評価を示していることが表れています。

学校評価委員会からの意見にもあるように、物価高上昇による学校で準備する各種教材や、教職員の研究資料、教材等への影響、対応について問題点の指摘があったように、情報教育の中のICT教育設備においてA評価が52%に留まっているもの、物価高上昇によるものの影響かと思われます。ただし、毎年、現場の教職員の評価も着実に上昇してきているイメージから、運営法人や、学校の取り組みとして、整備を意識されていると思われます。ICT化教育機器の拡充環境整備や設備拡充に加え、更に多様な教育の取り組みとしてデジタル対応への環境整備が今後も期待されます。

2023年度の学校評価から、学校全体で、教職員の連携と、教職員自身が積極的に学校と共に学び成長しようとしていることが伝わってきました。現場から声をあげられる環境が出来ている表れと考えます。

教育の現場では課題が多い場所だと理解しています。悩んだ時、迷った時は理念に立ち返り、「めざす学校像」を思い返し、成長し続ける教職員がいる、八洲学園高等学校に期待しています。